(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第6697427号
(P6697427)
(45)発行日　令和2年5月20日(2020.5.20)　(24)登録日　令和2年4月28日(2020.4.28)

(51)Int.Cl.　　F I
G09F 1/08 (2006.01)　　G09F 1/08 Z
B42D 15/00 (2006.01)　　B42D 15/00 341A

請求項の数 5　(全 15 頁)

(21)出願番号　特願2017-209630(P2017-209630)
(22)出願日　平成29年10月30日(2017.10.30)
(65)公開番号　特開2019-82564(P2019-82564A)
(43)公開日　令和1年5月30日(2019.5.30)
審査請求日　平成30年11月30日(2018.11.30)

(73)特許権者　512210836
株式会社ウイル・コーポレーション
石川県白山市福留町３７０番地
(74)代理人　240000327
弁護士　弁護士法人クレオ国際法律特許事務所
(72)発明者　若林　和芳
石川県白山市福留町３７０番地　株式会社ウイル・コーポレーション内
(72)発明者　小林　拓也
石川県白山市福留町３７０番地　株式会社ウイル・コーポレーション内
(72)発明者　鈴木　勇太
石川県白山市福留町３７０番地　株式会社ウイル・コーポレーション内
最終頁に続く

(54)【発明の名称】シート状印刷物

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
谷折線で折り畳み可能なシート本体と、前記シート本体を折り畳んだときに内側となる面に設けられた内面シートと、を備え、
前記内面シートには、前記シート本体を開いたときに残される残置領域と、切断部及び軸側縁部によって前記残置領域に対して区画されて前記シート本体を開いたときに前記軸側縁部を軸にして起立する起立領域と、が設けられ、
前記起立領域は、前記谷折線を挟んで設けられた一対のメイン起立領域と、前記谷折線を挟んで設けられた一対の側方起立領域と、を有し、
前記一対のメイン起立領域は、それぞれ前記軸側縁部が谷折線側の縁部に沿って形成され、且つ、前記谷折線側の縁部とは反対側の縁部に沿ってメイン接着部が形成され、
前記一対の側方起立領域は、それぞれ前記軸側縁部が前記一対のメイン起立領域の間に配置され、且つ、側方接着部が形成され、
一方のメイン起立領域に形成されたメイン接着部と、他方のメイン起立領域に形成されたメイン接着部とが接着し、
一方の側方起立領域に形成された側方接着部と、他方の側方起立領域に形成された側方接着部とが接着し、
前記シート本体を開いたとき、前記メイン接着部が接着した状態で前記一対のメイン起立領域が起立して空間が形成されると共に、前記一対の側方起立領域は、前記側方接着部が接着した状態で前記空間内に起立して配置される

ことを特徴とするシート状印刷物。
【請求項２】
請求項１に記載されたシート状印刷物において、
前記一対の側方起立領域は、前記谷折線の延伸方向に間隔をおいて複数設けられている
ことを特徴とするシート状印刷物。
【請求項３】
請求項１又は請求項２に記載されたシート状印刷物において、
前記一対の側方起立領域の少なくとも一方は、起立した際、周縁部が前記一対のメイン起立領域に接触する
ことを特徴とするシート状印刷物。
【請求項４】
請求項１から請求項３のいずれか一項に記載されたシート状印刷物において、
前記一対のメイン起立領域は、それぞれ軸側縁部が前記谷折線の延伸方向に対して平行に延び、
前記一対の側方起立領域の少なくとも一方は、軸側縁部が前記谷折線の延伸方向に対して直交する方向に延びている
ことを特徴とするシート状印刷物。
【請求項５】
請求項４に記載されたシート状印刷物において、
前記軸側縁部が前記谷折線の延伸方向に対して直交する方向に延びている側方起立領域は、前記切断部の一部が一方のメイン起立領域の軸側縁部に沿うと共に、この切断部と軸側縁部との交点が、前記一方のメイン起立領域の軸側縁部から離れた位置に形成されている
ことを特徴とするシート状印刷物。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、谷折線で折り畳まれたシート本体を開いたときに、シート本体の内側から起立領域が立ち上がるシート状印刷物に関する発明である。
【背景技術】
【０００２】
従来、シート本体を谷折線で折り畳んだときの内側面に、シート本体を開いたときに残される残置領域に対して切断部及び軸側縁部によって区画され、シート本体を開いたときに軸側縁部を軸にして起立する起立領域が設けられたシート状印刷物が知られている（例えば、特許文献１参照）。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】実用新案登録第３１９０９５４号
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
ところで、従来のシート状印刷物では、起立領域が谷折線を挟んで一対設けられると共に、この一対の起立領域の一部が互いに接着されている。そして、シート本体を開いたとき、一対の起立領域が接着された状態でそれぞれ軸側縁部を軸として立ち上がることで、この一対の起立領域に囲まれた空間が形成される。
しかしながら、この空間は、周囲が一対の起立領域に囲まれているものの、側方が開放しているため、デザインによっては見栄えが良くない場合があった。
【０００５】
そこで、本発明は、シート本体を開いたときに起立する一対の起立領域で囲まれた空間

の開放した側方を目立たなくして、見栄えの良いシート状印刷物を提供することを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【０００６】

上記目的を達成するため、本発明は、谷折線で折り畳み可能なシート本体と、前記シート本体を折り畳んだときに内側となる面に設けられた内面シートと、を備えたシート状印刷物である。

ここで、前記内面シートには、前記シート本体を開いたときに残される残置領域と、切断部及び軸側縁部によって前記残置領域に対して区画されて前記シート本体を開いたときに前記軸側縁部を軸にして起立する起立領域と、が設けられている。

また、前記起立領域は、前記谷折線を挟んで設けられた一対のメイン起立領域と、前記谷折線を挟んで設けられた一対の側方起立領域と、を有しており、前記一対のメイン起立領域は、それぞれ前記軸側縁部が谷折線側の縁部に沿って形成され、且つ、前記谷折線側の縁部とは反対側の縁部に沿ってメイン接着部が形成され、前記一対の側方起立領域は、それぞれ前記軸側縁部が前記一対のメイン起立領域の間に配置され、且つ、側方接着部が形成されている。

さらに、一方のメイン起立領域に形成されたメイン接着部と、他方のメイン起立領域に形成されたメイン接着部とが接着し、一方の側方起立領域に形成された側方接着部と、他方の側方起立領域に形成された側方接着部とが接着する。

そして、前記シート本体を開いたとき、前記メイン接着部が接着した状態で前記一対のメイン起立領域が起立して空間が形成されると共に、前記一対の側方起立領域は、前記側方接着部が接着した状態で前記空間内に起立して配置される。

【発明の効果】

【０００７】

よって、本発明のシート状印刷物では、シート本体を開いたとき、メイン接着部が接着した状態で起立した一対のメイン起立領域によって空間が形成されると共に、この空間内に一対の側方起立領域が起立して配置される。これにより、側方起立領域によって空間の開放した側方を目立たなくして、見栄えの向上を図ることができる。

【図面の簡単な説明】

【０００８】

【図１】実施例１のシート状印刷物の展開状態を示す外観斜視図である。

【図２】実施例１のシート状印刷物を示す分解斜視図である。

【図３】実施例１のシート状印刷物の平面図である。

【図４】展開状態の一対の側方起立領域を示す説明斜視図である。

【図５】実施例１の一対の側方起立領域の展開途中状態を示す説明斜視図である。

【図６】実施例２のシート状印刷物の展開状態を示す外観斜視図である。

【図７】実施例２のシート状印刷物の平面図である。

【発明を実施するための形態】

【０００９】

以下、本発明のシート状印刷物を実施するための形態を、図面に示す実施例１及び実施例２に基づいて説明する。

【００１０】

（実施例１）

まず、実施例１のシート状印刷物の構成を、図１～図５に基づいて説明する。

【００１１】

実施例１のシート状印刷物１は、図１に示す展開時に内側に起立領域が立ち上がるポップアップカードであり、図２に示すように、シート本体１０と、内面シート２０と、を有している。

ここで、シート本体１０及び内面シート２０は、いずれも厚紙により形成され、表面や裏面の任意の位置には、任意の図柄や文字等の印刷が施されている。なお、各シート１０、

２０の材質は厚紙に限定されるものではなく、合成樹脂などのシート、膜、薄板など、厚みの薄い可撓性の面状材であればよい。また、各シート１０、２０は、互いに異なる材質によって形成されてもよい。

【００１２】

シート本体１０は、長方形に形成された紙片であり、谷折線１１を中心に谷折りされ、二つ折り状態に折り畳み可能になっている。

【００１３】

内面シート２０は、図２に示すように、接着層３０を介してシート本体１０の内側面１２に貼り付けられる紙片である。ここで、シート本体１０の内側面１２とは、シート本体１０を谷折線１１で折り畳んだときに内側となる面である。また、実施例１では、内面シート２０は、谷折線１１を挟んで配置された第１内面シート２０ａと、第２内面シート２０ｂと、を有しており、この第１，第２内面シート２０ａ，２０ｂによって内側面１２の全面が覆われている。

【００１４】

接着層３０は、シート本体１０の内側面１２に設けられ、接着剤が塗布される接着領域３１と、接着剤が塗布されない非接着領域３２と、を有している（図２参照）。内面シート２０は、接着層３０の接着領域３１に対向する部分がシート本体１０の内側面１２に接着され、シート本体１０を開いたときに内側面１２上に残される残置領域２１となる。また、この内面シート２０は、非接着領域３２に対向する部分が、シート本体１０を開いたときに内側面１２から起立する起立領域２２となる。

【００１５】

起立領域２２は、図３に示すように、谷折線１１を挟んで配置された第１メイン起立領域２２ａと第２メイン起立領域２２ｂからなる一対のメイン起立領域と、谷折線１１を挟んで配置された第１側方起立領域２２ｃと第２側方起立領域２２ｄからなる一対の側方起立領域と、谷折線１１を挟んで配置された第３側方起立領域２２ｅと第４側方起立領域２２ｆからなる一対の側方起立領域と、を有している。ここで、第１側方起立領域２２ｃと第２側方起立領域２２ｄからなる一対の側方起立領域と、第３側方起立領域２２ｅと第４側方起立領域２２ｆからなる一対の側方起立領域とは、谷折線１１の延伸方向に間隔をおいて設けられている。

【００１６】

第１メイン起立領域２２ａは、第１内面シート２０ａに設けられ、第１切断部２３ａ及び第１軸側縁部２４ａによって残置領域２１に対して区画されて、シート本体１０を開いたときに第１軸側縁部２４ａを軸にして起立する。また、第１メイン起立領域２２ａの表面には、第１メイン接着部２５ａが形成されている。

【００１７】

第１切断部２３ａは、内面シート２０をカットする切込線であり、ここでは、谷折線１１の延伸方向に対して平行に延びると共に、両端が内面シート２０の周縁に至るまで延びている。また、この第１切断部２３ａは、中間部に鉤状に屈曲した部分が二か所設けられ、第１メイン起立領域２２ａが一部拡大されている。

【００１８】

第１軸側縁部２４ａは、内面シート２０をカットする切込みとカットしないアンカット部が交互に形成されたミシン目であり、第１切断部２３ａと谷折線１１との間に形成されている。これにより、第１軸側縁部２４ａは、第１メイン起立領域２２ａを区画する縁部のうち、谷折線１１側の縁部に沿って形成されることとなる。また、この第１軸側縁部２４ａは、ここでは谷折線１１の延伸方向に対して平行に延在され、両端が内面シート２０の周縁に至るまで延びている。

【００１９】

第１メイン接着部２５ａは、接着剤を介して第２メイン起立領域２２ｂに形成された第２メイン接着部２５ｂに接着される領域である。この第１メイン接着部２５ａは、第１メイン起立領域２２ａを区画する縁部のうち、谷折線１１側の縁部とは反対側の縁部に沿う

と共に、谷折線１１の延伸方向に対して平行に延びている。なお、この第１メイン接着部２５ａは、第１切断部２３ａに沿って第１メイン起立領域２２ａの一部が拡大した部分に設けられると共に、第１メイン接着部２５ａに沿って第１ミシン目２６ａが設けられている。そして、第１メイン接着部２５ａは、第１切断部２３ａ及び第１ミシン目２６ａに囲まれている。

【００２０】

第２メイン起立領域２２ｂは、第２内面シート２０ｂに設けられ、第２切断部２３ｂ及び第２軸側縁部２４ｂによって残置領域２１に対して区画されて、シート本体１０を開いたときに第２軸側縁部２４ｂを軸にして起立する。また、第２メイン起立領域２２ｂの表面には、第２メイン接着部２５ｂが形成されている。

【００２１】

第２切断部２３ｂは、内面シート２０をカットする切込線であり、ここでは、第２内面シート２０ｂのほぼ中央位置に、平面視で谷折線１１側に開放したコ字状となるように形成されている。

【００２２】

第２軸側縁部２４ｂは、内面シート２０をカットする切込みとカットしないアンカット部が交互に形成されたミシン目であり、第２切断部２３ｂと谷折線１１との間に形成されている。これにより、第２軸側縁部２４ｂは、第２メイン起立領域２２ｂを区画する縁部のうち、谷折線１１側の縁部に沿って形成されることとなる。また、この第２軸側縁部２４ｂは、谷折線１１の延伸方向に対して平行に延在され、第２切断部２３ｂの端部を結んでいる。

【００２３】

第２メイン接着部２５ｂは、接着剤を介して第１メイン接着部２５ａに接着される領域である。この第２メイン接着部２５ｂは、第２メイン起立領域２２ｂを区画する縁部のうち、谷折線１１側の縁部とは反対側の縁部に沿うと共に、谷折線１１の延伸方向に対して平行に延びている。

【００２４】

第１側方起立領域２２ｃは、第１内面シート２０ａの谷折線１１側の縁部に沿って設けられ、第３切断部２３ｃ及び第３軸側縁部２４ｃによって残置領域２１に対して区画されて、シート本体１０を開いたときに第３軸側縁部２４ｃを軸にして起立する。また、第１側方起立領域２２ｃの表面には、第１側方接着部２５ｃが形成されている。さらに、この第１側方起立領域２２ｃの谷折線１１の延伸方向に沿った長さＬ１は、谷折線１１から第２軸側縁部２４ｂまでの長さＬ２と同じ長さに設定されている。

【００２５】

第３切断部２３ｃは、内面シート２０をカットする切込線であり、第１軸側縁部２４ａと谷折線１１との間に形成されている。ここでは、第３切断部２３ｃは、一部が第１軸側縁部２４ａと重なり、一部が谷折線１１の延伸方向に対して直交する方向に延びている。

【００２６】

第３軸側縁部２４ｃは、内面シート２０をカットする切込みとカットしないアンカット部が交互に形成されたミシン目であり、第１軸側縁部２４ａと第２軸側縁部２４ｂとの間に形成され、一対のメイン起立領域（第１，第２メイン起立領域２２ａ，２２ｂ）の間に配置されている。この第３軸側縁部２４ｃは、谷折線１１の延伸方向に対して直交する方向に延在され、第３切断部２３ｃの端部につながっている。また、この第３軸側縁部２４ｃと第３切断部２３ｃとの交点ｘは、第１軸側縁部２４ａから離れた位置に形成されている。

【００２７】

第１側方接着部２５ｃは、接着剤を介して第２側方起立領域２２ｄに形成された第２側方接着部２５ｄに接着される領域である。

【００２８】

第２側方起立領域２２ｄは、第２内面シート２０ｂに設けられ、第４切断部２３ｄ及び

第４軸側縁部２４ｄによって残置領域２１に対して区画されて、シート本体１０を開いたときに第４軸側縁部２４ｄを軸にして起立する。また、第２側方起立領域２２ｄの表面には、第２側方接着部２５ｄが形成されている。

【００２９】

第４切断部２３ｄは、内面シート２０をカットする切込線であり、一部が第１軸側縁部２４ａと第２軸側縁部２４ｂとの間に形成され、残りの部分がシート本体１０を折り畳んだときに第１側方起立領域２２ｃが重なる位置に形成されている。この第４切断部２３ｄによって、ここでは内面シート２０が帯状にカットされている。

【００３０】

第４軸側縁部２４ｄは、内面シート２０をカットする切込みとカットしないアンカット部が交互に形成されたミシン目であり、第１軸側縁部２４ａと第２軸側縁部２４ｂとの間に形成され、一対のメイン起立領域（第１，第２メイン起立領域２２ａ，２２ｂ）の間に配置されている。さらに、この第４軸側縁部２４ｄは、第３軸側縁部２４ｃよりもシート本体１０の中心に近い位置に形成されている。この第４軸側縁部２４ｄは、谷折線１１に対して傾斜する方向に延在され、第４切断部２３ｄの端部を結んでいる。

【００３１】

第２側方接着部２５ｄは、接着剤を介して第１側方接着部２５ｃに接着される領域であり、第２側方起立領域２２ｄの先端に形成されている。なお、この実施例１では、第２側方接着部２５ｄに沿って第２ミシン目２６ｄが設けられ、第２側方接着部２５ｄは、第４切断部２３ｄ及び第２ミシン目２６ｄに囲まれている。

【００３２】

第３側方起立領域２２ｅは、第１内面シート２０ａの谷折線１１側の縁部に沿って設けられ、第５切断部２３ｅ及び第５軸側縁部２４ｅによって残置領域２１に対して区画されて、シート本体１０を開いたときに第５軸側縁部２４ｅを軸にして起立する。また、第３側方起立領域２２ｅの表面には、第３側方接着部２５ｅが形成されている。さらに、この第３側方起立領域２２ｅの谷折線１１の延伸方向に沿った長さＬ３は、谷折線１１から第２軸側縁部２４ｂまでの長さＬ２と同じ長さに設定されている。

【００３３】

第５切断部２３ｅは、内面シート２０をカットする切込線であり、第１軸側縁部２４ａと谷折線１１との間に形成されている。ここでは、第５切断部２３ｅは、一部が第１軸側縁部２４ａと重なり、一部が谷折線１１の延伸方向に対して直交する方向に延びている。

【００３４】

第５軸側縁部２４ｅは、内面シート２０をカットする切込みとカットしないアンカット部が交互に形成されたミシン目であり、第１軸側縁部２４ａと第２軸側縁部２４ｂとの間に形成され、一対のメイン起立領域（第１，第２メイン起立領域２２ａ，２２ｂ）の間に配置されている。この第５軸側縁部２４ｅは、谷折線１１の延伸方向に対して直交する方向に延在され、第５切断部２３ｅの端部につながっている。また、この第５軸側縁部２４ｅと第５切断部２３ｅとの交点ｙは、第１軸側縁部２４ａから離れた位置に形成されている。

【００３５】

第３側方接着部２５ｅは、接着剤を介して第４側方起立領域２２ｆに形成された第４側方接着部２５ｆに接着される領域である。

【００３６】

第４側方起立領域２２ｆは、第２内面シート２０ｂに設けられ、第６切断部２３ｆ及び第６軸側縁部２４ｆによって残置領域２１に対して区画されて、シート本体１０を開いたときに第６軸側縁部２４ｆを軸にして起立する。また、第４側方起立領域２２ｆの表面には、第４側方接着部２５ｆが形成されている。

【００３７】

第６切断部２３ｆは、内面シート２０をカットする切込線であり、一部が第１軸側縁部２４ａと第２軸側縁部２４ｂとの間に形成され、残りの部分がシート本体１０を折り畳ん

だときに第３側方起立領域２２ｅが重なる位置に形成されている。この第６切断部２３ｆによって、ここでは内面シート２０が帯状にカットされている。

【００３８】

第６軸側縁部２４ｆは、内面シート２０をカットする切込みとカットしないアンカット部が交互に形成されたミシン目であり、第１軸側縁部２４ａと第２軸側縁部２４ｂとの間に形成され、一対のメイン起立領域（第１，第２メイン起立領域２２ａ，２２ｂ）の間に配置されている。さらに、この第６軸側縁部２４ｆは、第５軸側縁部２４ｅよりもシート本体１０の中心に近い位置に形成されている。この第６軸側縁部２４ｆは、谷折線１１に対して傾斜する方向に延在され、第６切断部２３ｆの端部を結んでいる。

【００３９】

第４側方接着部２５ｆは、接着剤を介して第３側方接着部２５ｅに接着される領域であり、第４側方起立領域２２ｆの先端に形成されている。なお、この実施例１では、第４側方接着部２５ｆに沿って第３ミシン目２６ｆが設けられ、第４側方接着部２５ｆは、第６切断部２３ｆ及び第３ミシン目２６ｆに囲まれている。

【００４０】

次に、実施例１のシート状印刷物１の作用を説明する。

実施例１のシート状印刷物１は、配布時にはシート本体１０が谷折線１１を中心にして谷折りされ、内側面１２を内側に二つ折りに閉じられている。このとき、シート本体１０の外側面が表紙及び裏表紙として露出し、この外側面に印刷された図柄や文字等の情報を目視することができる。

【００４１】

そして、シート本体１０を開くと、図１に示すように、シート本体１０の内側面１２に貼り付けられた内面シート２０が露出し、この内面シート２０に印刷された図柄や文字等の情報を目視することができる。

【００４２】

さらに、シート本体１０を開いていくときには、図５に示すように、内面シート２０の第１内面シート２０ａがシート本体１０と共に持ち上がり、この第１内面シート２０ａに設けられた第１メイン起立領域２２ａ、第１側方起立領域２２ｃ、第３側方起立領域２２ｅが残置領域２１と共に引き上げられる。

【００４３】

このとき、第１メイン起立領域２２ａには、谷折線１１を挟んで第２内面シート２０ｂに設けられた第２メイン起立領域２２ｂが接着されている。そのため、この第２メイン起立領域２２ｂは、第１メイン起立領域２２ａに連動して引き上げられ、第２軸側縁部２４ｂを軸にして第２内面シート２０ｂの残置領域２１から起立する。一方、第１メイン起立領域２２ａは、第１切断部２３ａによって残置領域２１から切り離されている。このため、この第１メイン起立領域２２ａは、シート本体１０の動きに追従することなく、第２メイン起立領域２２ｂに引っ張られ、第１軸側縁部２４ａを軸にして第１内面シート２０ａの残置領域２１から起立する。

【００４４】

これにより、この第１メイン起立領域２２ａと第２メイン起立領域２２ｂによって、シート本体１０の中央には、内側面１２から突出した立体が形成される。しかも、この一対のメイン起立領域（第１メイン起立領域２２ａ，第２メイン起立領域２２ｂ）では、それぞれ第１軸側縁部２４ａ，第２軸側縁部２４ｂが谷折線１１側の縁部に沿って形成され、且つ、谷折線１１側の縁部とは反対側の縁部に沿って第１メイン接着部２５ａ，第２メイン接着部２５ｂが形成されている。

【００４５】

そのため、一対のメイン起立領域（第１メイン起立領域２２ａ，第２メイン起立領域２２ｂ）は、第１軸側縁部２４ａ，第２軸側縁部２４ｂを軸として起立した際、第１，第２メイン接着部２５ａ，２５ｂが谷折線１１に対向する。そして、第１メイン起立領域２２ａと第２メイン起立領域２２ｂとシート本体１０に囲まれた空間Ｈが生じる。また、谷折

線１１の延伸方向に対し、第１軸側縁部２４ａ，第２軸側縁部２４ｂ，第１メイン接着部２５ａ，第２メイン接着部２５ｂがいずれも平行に延在されている。これにより、この空間Ｈでは、谷折線１１の延伸方向に直交する側方が開放している。

【００４６】

これに対し、第１側方起立領域２２ｃには、谷折線１１を挟んで第２内面シート２０ｂに設けられると共に、第４切断部２３ｄによって残置領域２１から切り離された第２側方起立領域２２ｄが接着されている。そのため、この第２側方起立領域２２ｄは、図５に示すように、第１側方起立領域２２ｃに連動して引き上げられ、第４軸側縁部２４ｄを軸にして第２内面シート２０ｂの残置領域２１から起立する。一方、第１側方起立領域２２ｃは、第３切断部２３ｃによって残置領域２１から切り離されている。このため、この第１側方起立領域２２ｃは、シート本体１０の動きに追従することなく、第２側方起立領域２２ｄに引っ張られ、第３軸側縁部２４ｃを軸にして第１内面シート２０ａの残置領域２１から起立する。

【００４７】

このとき、一対の側方起立領域（第１側方起立領域２２ｃ，第２側方起立領域２２ｄ）では、それぞれ第３軸側縁部２４ｃ，第４軸側縁部２４ｄが第１メイン起立領域２２ａと第２メイン起立領域２２ｂとの間に配置されている。そのため、この第１側方起立領域２２ｃ及び第２側方起立領域２２ｄは、第３軸側縁部２４ｃ，第４軸側縁部２４ｄを軸にして起立した際、図４に示すように、第１メイン起立領域２２ａと第２メイン起立領域２２ｂとシート本体１０に囲まれた空間Ｈ内に引き込まれる。そして、この一対の側方起立領域（第１側方起立領域２２ｃ，第２側方起立領域２２ｄ）は、第１，第２側方接着部２５ｃ，２５ｂが接着した状態で空間Ｈ内に起立して配置される。

【００４８】

また、第３側方起立領域２２ｅ及び第４側方起立領域２２ｆについても同様である。すなわち、第３側方起立領域２２ｅには、谷折線１１を挟んで第２内面シート２０ｂに設けられると共に、第６切断部２３ｆによって残置領域２１から切り離された第４側方起立領域２２ｆが接着されている。そのため、この第４側方起立領域２２ｆは、図５に示すように、第３側方起立領域２２ｅに連動して引き上げられ、第６軸側縁部２４ｆを軸にして第２内面シート２０ｂの残置領域２１から起立する。一方、第３側方起立領域２２ｅは、第５切断部２３ｅによって残置領域２１から切り離されている。このため、この第３側方起立領域２２ｅは、シート本体１０の動きに追従することなく、第４側方起立領域２２ｆに引っ張られ、第５軸側縁部２４ｅを軸にして第１内面シート２０ａの残置領域２１から起立する。

【００４９】

このとき、一対の側方起立領域（第３側方起立領域２２ｅ，第４側方起立領域２２ｆ）では、それぞれ第５軸側縁部２４ｅ，第６軸側縁部２４ｆが第１メイン起立領域２２ａと第２メイン起立領域２２ｂとの間に配置されている。そのため、この第３側方起立領域２２ｅ及び第４側方起立領域２２ｆは、第５軸側縁部２４ｅ，第６軸側縁部２４ｆを軸にして起立した際、図４に示すように、第１メイン起立領域２２ａと第２メイン起立領域２２ｂとシート本体１０に囲まれた空間Ｈ内に引き込まれる。そして、この一対の側方起立領域（第３側方起立領域２２ｅ，第４側方起立領域２２ｆ）は、第３，第４側方接着部２５ｅ，２５ｆが接着した状態で空間Ｈ内に起立して配置される。

【００５０】

そして、このように、第１側方起立領域２２ｃ及び第２側方起立領域２２ｄと、第３側方起立領域２２ｅ及び第４側方起立領域２２ｆとが、それぞれ空間Ｈ内に起立して配置されることで、空間Ｈの側方が第１側方起立領域２２ｃや第３側方起立領域２２ｅによってほぼ塞がれることになる（図４参照）。この結果、空間Ｈの開放した側方を目立たなくして、見栄えの向上をはかることができる。

【００５１】

また、この実施例１では、第１側方起立領域２２ｃと第２側方起立領域２２ｄからなる

一対の側方起立領域と、第３側方起立領域２２ｅと第４側方起立領域２２ｆからなる一対の側方起立領域とが、谷折線１１の延伸方向に間隔をおいて設けられている。これにより、空間Ｈの両側に側方起立領域を設けることができ、この空間Ｈの開放した側方をさらに目立たなくして、見栄えの向上をはかることができる。

【００５２】

さらに、この実施例１では、第１側方起立領域２２ｃにおいて、第３切断部２３ｃの一部が第１軸側縁部２４ａと重なっていると共に、谷折線１１の延伸方向に沿った長さＬ１が、谷折線１１から第２軸側縁部２４ｂまでの長さＬ２と同じ長さに設定されている。これにより、第１側方起立領域２２ｃが起立した際、この第１側方起立領域２２ｃの周縁部が一対のメイン起立領域（第１メイン起立領域２２ａ，第２メイン起立領域２２ｂ）に接触する。

【００５３】

また、第３側方起立領域２２ｅにおいて、第５切断部２３ｅの一部が第１軸側縁部２４ａと重なっていると共に、谷折線１１の延伸方向に沿った長さＬ３が、谷折線１１から第２軸側縁部２４ｂまでの長さＬ２と同じ長さに設定されている。これにより、第３側方起立領域２２ｅが起立した際、この第３側方起立領域２２ｅの周縁部が一対のメイン起立領域（第１メイン起立領域２２ａ，第２メイン起立領域２２ｂ）に接触する。

【００５４】

これにより、第１側方起立領域２２ｃ及び第３側方起立領域２２ｅによって、空間Ｈの内部で一対のメイン起立領域（第１メイン起立領域２２ａ，第２メイン起立領域２２ｂ）を支持することができる。そのため、一対のメイン起立領域（第１メイン起立領域２２ａ，第２メイン起立領域２２ｂ）の起立状態を安定させ、シート本体１０を開いたときの見栄えをさらに向上させることができる。

【００５５】

しかも、この実施例１では、第１メイン起立領域２２ａの第１軸側縁部２４ａ及び第２メイン起立領域２２ｂの第２軸側縁部２４ｂが、それぞれ谷折線１１の延伸方向に対して平行に延びている。また、第１側方起立領域２２ｃの第３軸側縁部２４ｃと、第３側方起立領域２２ｅの第５軸側縁部２４ｅは、いずれも谷折線１１の延伸方向に対して直交する方向に延びている。

【００５６】

これにより、シート本体１０を開いたときに、第１メイン起立領域２２ａ，第２メイン起立領域２２ｂ，第１側方起立領域２２ｃ，第３側方起立領域２２ｅによって直方体の立体を形成することができる。

【００５７】

なお、この実施例１では、第１メイン接着部２５ａに沿った第１ミシン目２６ａが設けられている。そのため、第１メイン起立領域２２ａのうち、第１メイン接着部２５ａが設けられた部分を第１ミシン目２６ａで折り曲げ、第２メイン起立領域２２ｂに沿わせることができる。これにより、第１，第２メイン起立領域２２ａ，２２ｂの撓みや曲りを防止して、この第１，第２メイン起立領域２２ａ，２２ｂの接着位置を直角にすることができる。

【００５８】

さらに、ここでは、第１側方起立領域２２ｃにおいて、第３切断部２３ｃの一部が第１メイン起立領域２２ａの第１軸側縁部２４ａに沿うと共に、この第３切断部２３ｃと第３軸側縁部２４ｃとの交点ｘが、第１軸側縁部２４ａから離れた位置に形成されている。また、第３側方起立領域２２ｅにおいても、第５切断部２３ｅの一部が第１メイン起立領域２２ａの第１軸側縁部２４ａに沿うと共に、この第５切断部２３ｅと第５軸側縁部２４ｅとの交点ｙが、第１軸側縁部２４ａから離れた位置に形成されている。

【００５９】

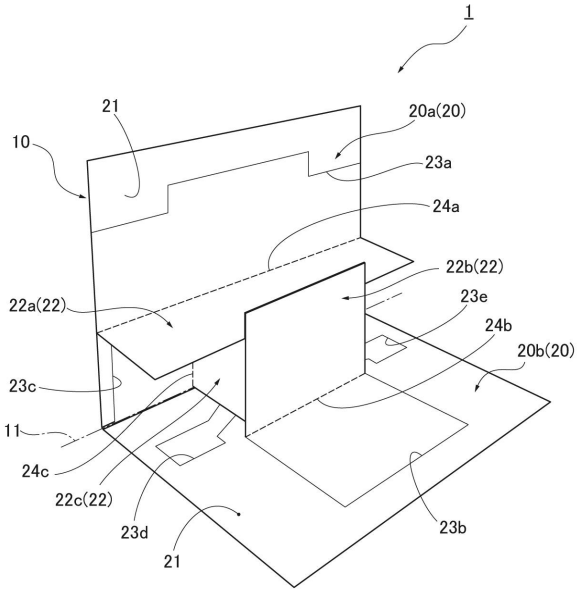
これにより、第１側方起立領域２２ｃや第３側方起立領域２２ｅが起立する際、第１メイン起立領域２２ａに引っかかりにくくなり、円滑に起立することができる。

【００６０】
（実施例２）
実施例２のシート状印刷物は、一対の側方起立領域を一組だけ設けた例である。以下、図６及び図７に基づいて、実施例２のシート状印刷物の構成を説明する。
【００６１】
実施例２のシート状印刷物１Ａは、図７に示すように、シート本体１０と、内面シート２０と、を有し、内面シート２０には、残置領域４１と起立領域４２とが設けられている。そして、起立領域４２は、谷折線１１を挟んで配置された第１メイン起立領域４２ａと第２メイン起立領域４２ｂからなる一対のメイン起立領域と、谷折線１１を挟んで配置された第１側方起立領域４２ｃと第２側方起立領域４２ｄからなる一対の側方起立領域と、を有している。
【００６２】
この実施例２におけるシート本体１０及び内面シート２０は、実施例１と同様であるため、詳細な説明を省略する。
【００６３】
第１メイン起立領域４２ａは、第１内面シート２０ａに設けられ、第１切断部４３ａ及び第１軸側縁部４４ａによって残置領域４１に対して区画されて、シート本体１０を開いたときに第１軸側縁部４４ａを軸にして起立する。また、この第１メイン起立領域４２ａの表面には、第１メイン接着部４５ａが形成されている。
【００６４】
第２メイン起立領域４２ｂは、第２内面シート２０ｂに設けられ、第２切断部４３ｂ及び第２軸側縁部４４ｂによって残置領域４１に対して区画されて、シート本体１０を開いたときに第２軸側縁部４４ｂを軸にして起立する。また、この第２メイン起立領域４２ｂの表面には、第２メイン接着部４５ｂが形成されている。
【００６５】
そして、実施例１と同様に、第１軸側縁部４４ａ及び第２軸側縁部４４ｂは、それぞれ谷折線１１側の縁部に沿って形成され、谷折線１１側の縁部とは反対側の縁部に沿って第１，第２メイン接着部４５ａ，４５ｂが形成されている。
【００６６】
また、この実施例２では、第１メイン起立領域４２ａ及び第２メイン起立領域４２ｂが、内面シート２０の周縁のうち、谷折線１１に直交する方向の一方の周縁に沿って形成されている。
【００６７】
第１側方起立領域４２ｃは、第１内面シート２０ａの谷折線１１側の縁部に沿って設けられ、第３切断部４３ｃ及び第３軸側縁部４４ｃによって残置領域４１に対して区画されて、シート本体１０を開いたときに第３軸側縁部４４ｃを軸にして起立する。また、第１側方起立領域４２ｃの表面には、第１側方接着部４５ｃが形成されている。さらに、この第１側方起立領域４２ｃの谷折線１１の延伸方向に沿った長さＬ４は、谷折線１１から第２軸側縁部４４ｂまでの長さＬ５と同じ長さに設定されている。
【００６８】
第２側方起立領域４２ｄは、第２内面シート２０ｂに設けられ、第４切断部４３ｄ及び第４軸側縁部４４ｄによって残置領域４１に対して区画されて、シート本体１０を開いたときに第４軸側縁部４４ｄを軸にして起立する。また、第２側方起立領域４２ｄの表面には、第２側方接着部４５ｄが形成されている。
【００６９】
そして、この実施例２においても、第３軸側縁部４４ｃ及び第４軸側縁部４４ｄは、第１軸側縁部２４ａと第２軸側縁部２４ｂとの間に形成され、一対のメイン起立領域（第１，第２メイン起立領域４２ａ，４２ｂ）の間に配置されている。また、第４軸側縁部４４ｄの方が、第３軸側縁部２４ｃよりも内面シート２０の周縁に近い位置に形成されている。

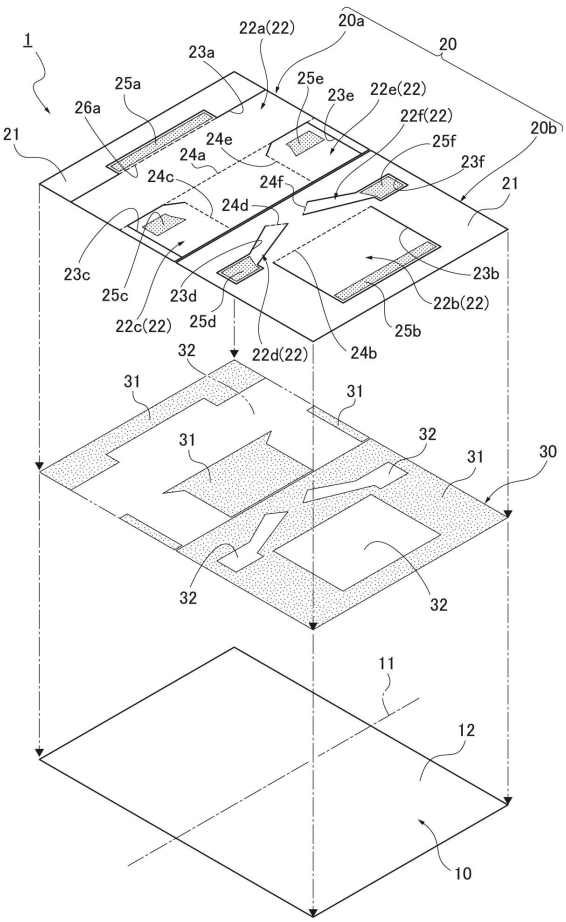
【００７０】
次に、実施例２のシート状印刷物１Ａの作用を説明する。
実施例２のシート状印刷物１Ａでは、シート本体１０を開いたとき、第１メイン起立領域４２ａと第２メイン起立領域４２ｂとが、第１，第２メイン接着部４５ａ，４５ｂを接着した状態で起立し、この起立した第１，第２メイン起立領域４２ａ，４２ｂによって空間Ｈが形成される。
【００７１】
ここで、第１メイン起立領域４２ａ及び第２メイン起立領域４２ｂは、内面シート２０の周縁のうち、谷折線１１に直交する方向の一方の周縁に沿って形成されている。これにより、空間Ｈは、一方の側方が内面シート２０の周縁に沿い、他方の側方がシート本体１０の内側に向かって開放する（図６参照）。
【００７２】
一方、第１，第２側方起立領域４２ｃ，４２ｄは、第１，第２側方接着部４５ｃ，４５ｄが接着した状態で、それぞれ第３軸側縁部４４ｃ，第４軸側縁部４４ｄを軸にして起立する。このとき、第３，第４軸側縁部４４ｃ，４４ｄがいずれも第１メイン起立領域４２ａと第２メイン起立領域４２ｂとの間に配置されているため、この第１，第２側方起立領域４２ｃ，４２ｄは、起立したときに空間Ｈ内に引き込まれる。
【００７３】
しかも、この実施例２では、第４軸側縁部４４ｄの方が、第３軸側縁部２４ｃよりもシート本体１０の周縁に近い位置に形成されているので、第１側方起立領域４２ｃは、シート本体１０の内側に向かって開放している空間Ｈの側方に近い位置に起立する。これにより、空間Ｈのシート本体１０の内側に向かって開放した側方を目立たなくして、見栄えの向上を図ることができる。
【００７４】
以上、本発明のシート状印刷物を実施例１及び実施例２に基づいて説明してきたが、具体的な構成については、これらの実施例に限られるものではなく、特許請求の範囲の各請求項に係る発明の要旨を逸脱しない限り、設計の変更や追加等は許容される。
【００７５】
上記実施例１及び実施例２では、内面シート２０が一層である例を示したが、内面シート２０を二層以上の複数層のシート材によって形成してもよい。この場合では、起立領域２２の強度の向上を図ることができる。
【００７６】
また、実施例１では、一対の側方起立領域を二組設けた例を示したが、谷折線１１を挟んで設ける一対の側方起立領域を三組以上設けてもよい。
【００７７】
さらに、実施例１では、第１軸側縁部２４ａ等の各軸側縁部をミシン目によって形成する例を示したが、起立領域２２を屈曲させやすくすればよいので、例えばエンボス加工による折曲線や、アンカット部を点状に残した切り込み等で形成してもよい。
【００７８】
また、実施例１では、接着層３０が、接着剤が塗布される接着領域３１と、接着剤が塗布されない非接着領域３２と、を有し、内面シート２０のうち、非接着領域３２に対向する部分を起立領域２２にする例を示した。しかしながら、非接着領域は、例えばシート本体１０の全面に接着剤を塗布した後、起立領域２２に対向する部分に上塗り印刷やコーティングをすることで粘着力を取り除く方法によって形成してもよい。
【００７９】
そして、実施例１では、第１メイン起立領域２２ａ及び第２メイン起立領域２２ｂを区画する第１，第２切断部２３ａ，２３ｂや、第１，第２軸側縁部２４ａ，２４が谷折線１１の延伸方向に対して平行或いは直交する方向に延びる例を示したが、これに限らない。起立領域２２のデザインに応じて任意の形状とすることができる。
【符号の説明】

【００８０】
１，１Ａ　シート状印刷物
１０　シート本体
１１　谷折線
１２　内側面
２０　内面シート
２０ａ　第１内面シート
２０ｂ　第２内面シート
２１　残置領域
２２　起立領域
２２ａ，４２ａ　第１メイン起立領域
２２ｂ，４２ｂ　第２メイン起立領域
２２ｃ，４２ｃ　第１側方起立領域
２２ｄ，４２ｄ　第２側方起立領域
２２ｅ　第３側方起立領域
２２ｆ　第４側方起立領域
２３ａ　第１切断部
２３ｂ　第２切断部
２３ｃ　第３切断部
２３ｄ　第４切断部
２３ｅ　第５切断部
２３ｆ　第６切断部
２４ａ　第１軸側縁部
２４ｂ　第２軸側縁部
２４ｃ　第３軸側縁部
２４ｄ　第４軸側縁部
２４ｅ　第５軸側縁部
２４ｆ　第６軸側縁部
２５ａ　第１メイン接着部
２５ｂ　第２メイン接着部
２５ｃ　第１側方接着部
２５ｄ　第２側方接着部
２５ｅ　第３側方接着部
２５ｆ　第４側方接着部
２６ａ　第１ミシン目
２６ｄ　第２ミシン目
２６ｆ　第３ミシン目

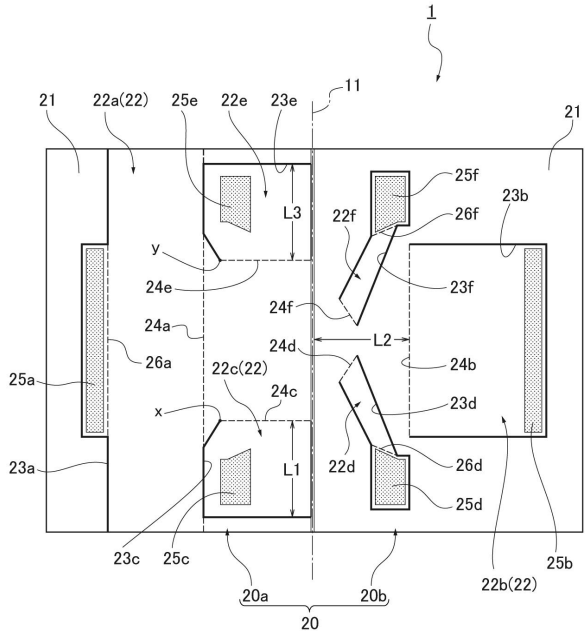
【図１】


1
21
20a(20)
10
23a
24a
22b(22)
22a(22)
23e
24b
20b(20)
23c
11
24c
22c(22)
23d
21
23b

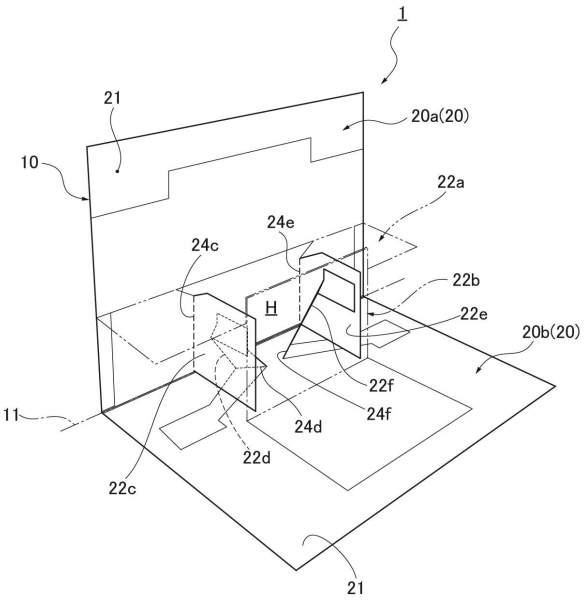
【図２】


1
22a(22)
20a
20
23a
25a
25e
23e
22e(22)
26a
22f(22)
24e
25f
24a
23f
20b
24c
24f
21
24d
23c
23b
25c
23d
22b(22)
22c(22)
25d
25b
22d(22)
24b
32
31
31
31
32
31
30
32
32
11
12
10

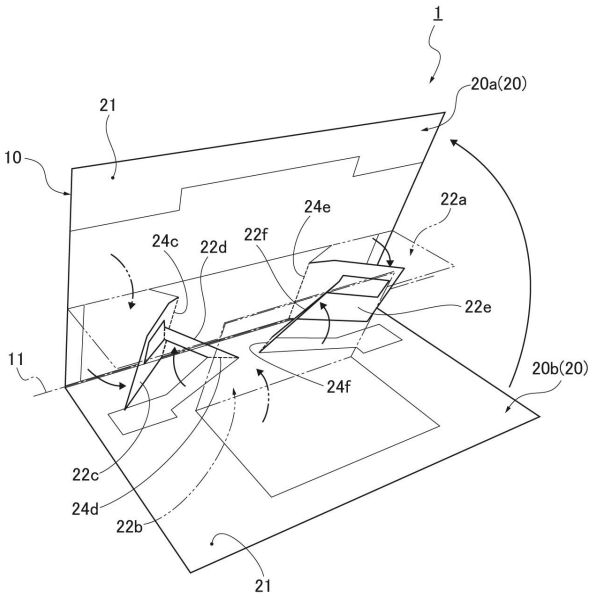
【図３】


1
21
22a(22)
25e
22e
23e
11
21
25f
23b
L3
22f
26f
y
24e
23f
24f
24a
L2
24d
26a
24b
25a
22c(22)
24c
23d
x
22d
26d
23a
L1
25d
23c
25c
25b
22b(22)
20a
20b
20

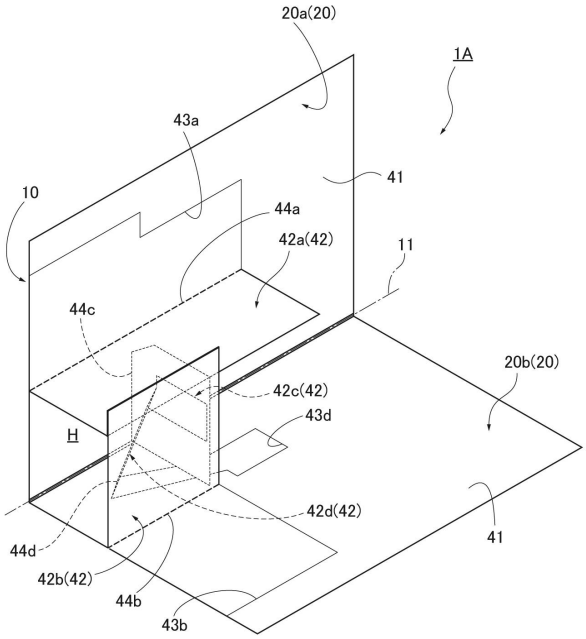
【図４】


1
21
20a(20)
10
22a
24e
24c
22b
H
22e
20b(20)
22f
11
24f
24d
22d
22c
21

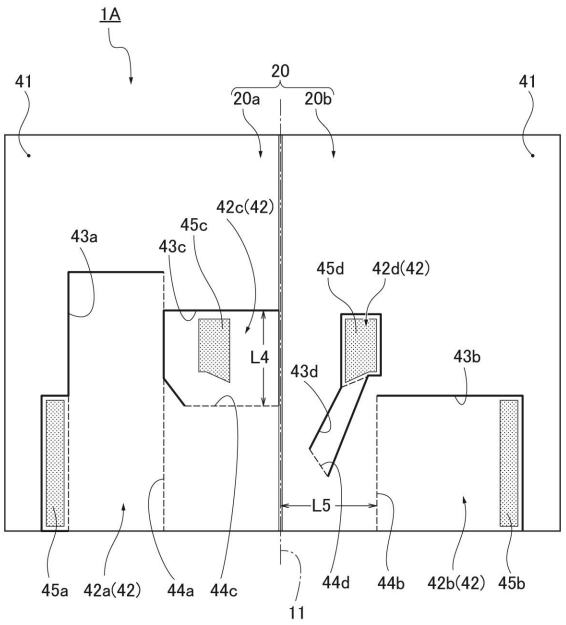
【図５】


1
20a(20)
21
10
24e
22a
24c
22d
22f
22e
11
20b(20)
24f
22c
24d
22b
21

【図６】


20a(20)
1A
43a
41
10
44a
42a(42)
11
44c
20b(20)
42c(42)
43d
H
42d(42)
41
44d
42b(42)
44b
43b

【図７】


1A
20
41
20a
20b
41
42c(42)
45c
43a
43c
45d
42d(42)
L4
43d
43b
L5
45a
42a(42)
44a
44c
11
44d
44b
42b(42)
45b

フロントページの続き

審査官　金田　理香

(56)参考文献　特開２０１２－１５８０６８（ＪＰ，Ａ）
実開昭５７－０４３４７９（ＪＰ，Ｕ）
特開２００６－０２７２４７（ＪＰ，Ａ）
登録実用新案第３１９１８９５（ＪＰ，Ｕ）
登録実用新案第３０５５０１０（ＪＰ，Ｕ）
米国特許出願公開第２０１２／０２６６５０４（ＵＳ，Ａ１）
米国特許第０５５８８２３３（ＵＳ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ｂ４２Ｄ　１５／０２　－　１５／０８
Ｇ０９Ｆ　　１／０６　－　　１／０８
Ａ６３Ｈ　３３／３８